



©Marco Borggreve

音楽とことばのダイアログで紡ぐ
「新しい」協奏曲のカタチ

庄司紗矢香 音楽とことば 未来への回帰

モディリアーニ弦楽四重奏団
ピアノ／ベンジャミン・グローヴナー



©Luc Braquet

Ticket

【全席指定・税込】発売中

一般 6000円

シルバー（65歳以上） 5500円（予定枚数終了）

U 24（24歳以下） 3000円

高校生以下 無料（要事前予約）

車椅子席 6000円（付添席1名無料）

■チケットかながわ 0570-015-415（10:00～18:00）
<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

■神奈川県立音楽堂窓口（13:00～17:00 月曜休）
神奈川県立音楽堂 13:00～17:00 月曜休

■神奈川県民ホール窓口／K A A T 神奈川芸術劇場窓口（10:00～18:00）
神奈川県民ホール 10:00～18:00 K A A T 神奈川芸術劇場 10:00～18:00

■チケットぴあ <https://t.pia.jp/>（ダイヤル：241-384）

■イープラン <https://eplus.jp/>

■ローソンチケット <https://l-tike.com/>（ダイヤル：36616）

*シルバー、U 24、高校生以下、車椅子（付添）はチケットかながわのみで取り扱い。
枚数限定。要事前予約引き取り方法により手数料がかかります。

*未就学児の入場はご遠慮ください。

*託児サービスあり。詳細は裏面をご覧ください。

Program

武満徹：妖精の距離
ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタ
ヴェルディ：弦楽四重奏曲 ホ短調
ショーン：ヴァイオリン、ピアノと
弦楽四重奏のための協奏曲 ニ長調 作品21
庄司紗矢香 音楽と言葉の旅「ふるさと」
（作・演出：平田オリザ）とともに演奏。
出演：渡辺香奈、井上三奈子、大竹直（青年団）

2023
9.20 WED 18:15 開場
19:00 開演
Wednesday, 20th, September 2023, 19:00

Music and Words, Sayaka Shoji (Violin)
Return to the future
Quatuor Modigliani
Benjamin Grosvenor (Piano)
Oriza Hirata (Script and Direction)

©Laura Stevens

庄司 紗矢香 Sayaka Shoji, Violin

「絶大なスタミナと何事にもひるまない精神、希有な音楽家」とグラモフォン誌に評された庄司紗矢香は、テミルカーノフ、メータ、ノセダ、ヤンソンス、P.ヤルヴィなどの指揮者や、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー響、マリンスキー歌劇場管、NHK交響楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管といった世界を代表するオーケストラと共演を重ねている。近年にはオラフソンやカシオーリとのリサイタルツアー、V.アシュケナーヅ指揮フィルハーモニア管、サロネン指揮フィルハーモニア管、テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー響、クリーヴランド管などと共演。録音では、22年にはカシオーリとの新しいアルバム「モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ集」がリリースされた。1999年にバガニー国際ヴァイオリン・コンクールで最年少および日本人として初めて優勝。2010年芸術選奨新人賞、16年毎日芸術賞を受賞。使用楽器は上野製薬株式会社より貸与された1729年製ストラディヴァリウス「レカミエ (Recamier)」。



© Laura Stevens

モディリアーニ弦楽四重奏団 Quatuor Modigliani

アムリ・コエトール (ヴァイオリン) Amaury Coeytaux, Violin
ロイク・リョー (ヴァイオリン) Loic Rio, Violin
ローラン・マルフェング (ヴィオラ) Laurent Marfaing, Viola
フランソワ・キエフェル (チェロ) François Kieffer, Cello

パリを拠点に活動、2023年に創設20年を迎えた。世界の名だたるホールや最高峰の室内楽シリーズに定期的に招かれている。22年からシューベルト生誕225年に焦点を当てたプログラムを展開。またJ-G.ケラスやS.ヨルム、A.グロスと共演し、ほかにもJ-F.ヌーブルジェから贈られた記念の新曲をヨーロッパ各地で演奏する。録音も活発で、ミラーレ・レーベルからこれまで12枚のCDをリリース、数々の賞を受賞している。20年にはシューベルトの弦楽四重奏曲全15曲、そして同年にリリースした『シューベルト：八重奏曲』は国際的に高い評価を得た。



© Jérôme Bonnet

彼女のさらなる深化を体感したい。
共演者の音楽性を自らのプラスαにしてきた
庄司が魅せる新境地。

(音楽評論家 柴田克彦)

庄司 紗矢香

モディリアーニ弦楽四重奏団とは、今まで様々な音楽祭で共演したり招いていただいたりしてきましたのですが、いつの日か日本でも共演できたら良いなと思っていたのですが、ようやく実現することとなりました。ピアニストはモディリアーニ弦楽四重奏団の信頼するグローヴナー氏に白羽の矢が立ちました。

そして、今回、ご縁があって平田オリザ氏にコラボレーションしていただくこととなりましたが、平田氏にはショーソンのコンチェルトからインスパイアされるものをご自由に書いてくださいとお願いしました。これから話し合いを重ねて仕上げていく予定ですが、単に演奏直前にくっつけるのではなく、共作のプロセスができれば興味深いと思いました。現代を生きる他ジャンルのアーティストの視点は、我々「伝統芸能」をやっている演奏家の想像力や常識を遥かに越すことが常で、演奏家、観客の皆様と共に、今日における芸術の意義を柔軟に考え、新たな発見、想像力の触発、あるいは芸術的な衝突や爆発、を経験できる機会を持つことを期待しています。

神奈川県立音楽堂で演奏するのは、2016年以來となりますが、皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

平田 オリザ

庄司紗矢香さんと「何かできないか?」というお話があり、庄司さんの暮らすフランスと、私の住む兵庫県豊岡市を挟んで何度かのやりとりがあり、ショーソンの『ヴァイオリン、ピアノと弦楽四重奏のための協奏曲』の楽章ごとに言葉を挟むという枠組みが出来たのは、もう一年以上のことだったと思う。

引き受けてはみたものの、自分の中でなかなかアイデアがまとまらない。当該の楽曲はもとより、庄司さんの様々な演奏を夢に出るくらいに繰り返し聞いて今年の秋と冬を過ごした。

欧州で、彼地の劇場からオペラや演劇の執筆依頼が来た際、「向こうの観客に併せて書いているのですか?」という質問をよく受ける。

人間だから意識はする。だが、何年か仕事を続けるうちに、意識しすぎて仕方がないと考えるようになった。欧州にまたいる作家の中で、わざわざ私に何かを依頼するということは、日本人の私にしか書けないものを期待しているわけで、だったら好きに書かせてもらおうと開き直るようになった。

今回も少し似たところがある。世界の庄司紗矢香を意識しないわけにはいかないけれど、美しい言葉を並べるだけならば、もっと適した人がいるだろう。そう考えてからは比較的すらすらと言葉が並んだ。

初めての試みなので、いったいどんな化学反応が起こるのか、まったく予測が出来ない。刺激的な旅が始まろうとしている。

ベンジャミン・グローヴナー Benjamin Grosvenor, Piano

グローヴナーは、高度なヴィルトゥオソジティ、深い楽曲理解による演奏によって注目を集めている。近來の英国では最も重要なピアニストであり、欧米ではスター・ピアニストとしての地位を確立。英国内の主要オーケストラはもとより、シヤーン、ナガノ、ロト、サロネン、スラットキンら著名な指揮者のもと、ボストン響、シカゴ響、フランス国立管などと共演。リサイタルもウィグモアホールなどロンドンの主要ホールやパリのシャンゼリゼ劇場、NYのカーネギーホールなどで定期的に演奏している。2020/21年シーズンにはラジオ・フランスでのアーティスト・イン・レジデンスを務めた。録音では11年にデッカ・クラシックスと契約、英国の音楽家としては史上最年少、英国のピアニストとしては約60年ぶりの契約となった。ショパンのピアノ協奏曲を収録したアルバムはグラモフォン賞とディアパゾン金賞を受賞。リストのソナタを中心とした最新アルバムはシヨク賞を受賞するなど各誌で絶賛されている。



© Marco Borggreve

平田 オリザ Oriza Hirata, Script and direction

劇作家・演出家。芸術文化観光専門職大学学長。劇団「青年団」主宰。こまばアゴラ劇場・江原河畔劇場芸術総監督。1962年東京生まれ。95年『東京ノート』で第39回岸田國土戯曲賞、2003年日韓合同公演『その河をこえて』、五月で第2回朝日舞台芸術賞グランプリ、06年モンブラン国際文化賞、19年『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞を受賞。11年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。オペラ作品では、2003年『班女』、16年ハンブルグ州立歌劇場初演『Stilles Meer 海、静かな海』、17年『二人静』(いずれも作曲：細川俊夫)の作・演出をつとめる。



青年団 Seinenendan

主宰の平田オリザを中心に国際基督教大学内で1982年に結成、翌83年に旗揚げ公演。86年頃より活動拠点をこまばアゴラ劇場に移し、新しい演劇様式を追求するなか89年『ソウル市民』初演が「静かな劇」と評され「現代口語演劇理論」を確立していく。国内各地域と海外での劇団公演、韓国・フランスなど各国との国際交流企画も多数行い、2020年には新たな活動拠点として、兵庫県豊岡市に江原河畔劇場を設立。また、平田や劇団員によるワークショップ実施を通して、コミュニケーション教育の分野にも貢献している。



渡辺 香奈

井上 三奈子

大竹 直

木のホール

神奈川県立音楽堂

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 TEL 045-263-2567(9:00~17:00、月曜日)

<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

フェイスブック 神奈川県立音楽堂 ツイッター @Kana_Ongakudo

- JR「桜木町」駅(南改札西口、北改札西口)・市営地下鉄「桜木町」駅(南1番出口)から徒歩10分
- 京浜急行「日ノ出町」駅から徒歩13分
- みなとみらい線「みなとみらい」駅から徒歩20分

開場・開演前にJR桜木町駅より無料シャトルバス運行

9/20(水) 出発時間 ①18:05 ②18:15 ③18:30 ④18:45 ●運賃無料 ●予約不要 ●当日先着順
タクシー降車場「貸切バスのりば」より発車(「神奈川県立音楽堂」掲示があるバスです)

託児サービス | 株式会社明日香 有料・公演1週間前までに要事前予約
TEL 0120-165-115(土日祝日をのぞく10:00~17:00) 【予約フォーム】<https://ws.formzu.net/dist/S73871289/>

※やむを得ず公演内容に変更が生じる場合があります。ご来場前に音楽堂ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。

